12.1[illegible]X100

豊かで充実した老後を
漁業者年金
ひとりは万人のために、万人はひとりのために

拓水
3月号　No. 389
一部　10円
発行所　兵庫県漁業協同組合連合会
（財）兵庫県水産振興基金
神戸市兵庫区中之島 2-2-1
TEL　681－6954～7
発行人　兵庫県漁業協同組合連合会

〝のり品質向上を競う〟

淡路水交会主催　第14回淡路のり品評会開く

兵庫県知事賞に　室津浦漁協、コンヤ水産選ばれる

去る二月三日（金）、淡路水交会（鯛正次郎会長）主催の第一四回淡路のり品評会が、洲本市、淡路水産センターにおいて開催されました。

淡路のりは、県下生産量の約半分を島内で生産されるほどの重要な基幹漁業であり、生産者約七八六名（二六六経営体）の方々が従事されています。

島内津々浦々から、この品評会に出品された一三、二〇〇枚（一〇〇枚／一点）、一三二点の乾のりは、島内の代表とも言える逸品揃いのため、審査にあたられた審査員の方々にはご苦労があった様です。

高橋伊勢雄審査委員長（県立水産試験場長）をはじめとする審査員の方々の厳正な審査の結果、兵庫県知事賞（室津浦漁業協同組合、コンヤ水産、代表者、松下利弘氏）をはじめとする各賞が決定しました。

なお、出品されたのりは、消費宣伝と福祉活動に資するため、島内小学校の米飯給食、福祉センターへ無料配付されることになっています。

（審査講評要旨）

本年、淡路のりは、本張後、高水温のため徒長気味で生産者は品質保持に、大変苦労されており、また、全国的な量産傾向のため、単価が低迷し、経営面で苦しい状況であると思われる。

しかし乍ら、このような状況の中でも、出品されたのりは、どれをとっても高品質で、色調は初摘みの特徴で、やや赤味のものもあるが、全般的にテリ（つや）が認められ、初摘みらしく柔らかいものが多かった。また、仕立てについては、小穴、欠けなど殆どなく、丁寧な生産姿勢が伺えられる。

最後に、審査員全員の意見として、選別が非常に困難なほど、品質が揃っていた。

第14回　淡路のり品評会審査結果表

平成元年2月3日

賞の区分	漁協名	団体名	代表者
兵庫県知事賞	室津浦	コンヤ水産	松下　利広
洲本税務署長賞	釜口	津国〃	津国　義明
兵庫県洲本農林水産事務所長賞	塩田	谷福〃	谷　登
	富島	淡海〃	田中　強
	浅野浦	溝辰〃	溝尾　辰次
兵庫県立水産試験場長賞	富島	丸福〃	富永　敏治
	室津浦	浜喜〃	浜田　明義
	一宮町	直助〃	吉田　正美
兵庫県漁業協同組合連合会長賞	富島	浜野〃	浜野　義一
	浅野浦	浜栄〃	浜田　栄
	一宮町	吉田〃	伊藤　康文
兵庫県信用漁業協同組合連合会長賞	富島	丸源〃	田中　潤市
	室津浦	岩五郎〃	南　正宣
	一宮町	㊖〃	志智　良一
兵庫県漁業共済組合長賞	仮屋	由仲〃	岡田　照明
	森	音蔵〃	森　祐三
	富島	ベジ〃	坂部　尚司
兵庫県内海漁船保険組合長賞	仮屋	岡田〃	岡田　正道
	浅野浦	浅田〃	浅田　勝
	室津浦	三和〃	浜田　進

賞の区分		漁協名	団体名	代表者
淡路沿海各市町長賞	洲本市	東由良町	新川水産	新川　克彦
	津名町	塩田	中野〃	中野　隆次
	東浦町	仮屋	新八〃	相田　孝
	淡路町	森	源吉〃	岡田　秀明
	北淡町	浅野浦	高木〃	高木　毅
	一宮町	一宮町	八左〃	地道千代治
	五色町	五色町	西川〃	西川　孝拓
	西淡町	阿那賀	大江〃	大江　俊一
	南淡町	南淡	阿万のり研究会	前田　吉計
淡路水交会長賞		由良	島垣水産	島垣　照次
		炬口	炬口第二〃	竹岡　千尋
		浅野浦	丸金〃	溝尾　一美
		浅野浦	丸昭〃	西尾　昭二
		育波浦	柳川〃	柳川　杉雄
		室津浦	京太〃	井高　環
		五色町	松下〃	松下　隆
		五色町	松田〃	松田　義隆
		丸山	仲博〃	仲尾　博行

審査を行う審査員の方々

節分の日にのり消費拡大キャンペーン

姫路市内の幼稚園３ヶ所で開催

二月三日は節分の日です。この節分の日には古くから一年間の招福と健康を祈って、豆をまいたり、イワシを食べたり、巻きずしを丸かぶりするなどの風習があります。

この二月三日、節分の日に、兵庫県漁連（酒部龍三会長理事）では、姫路市内の幼稚園３ヶ所をまわり、「兵庫のり」消費拡大キャンペーンを実施しました。

二月三日当日、同連合会では、自然食品としての〝のり〟に対する理解と認識を深めてもらうことを目的に、姫路市内の城乾、安室東、安室幼稚園をまわり、約二〇〇名の幼稚園児を対象に、テレビの人気キャラクターを用いたのりの普及PRの寸劇を行い、巻きずし、すし海苔、鬼のお面、風船を、それぞれ園児たちにプレゼントしました。

劇が始まり、この劇の主人公であるテレビ人気キャラクターが登場すると、園児たちは大声で声援をおくり、大喜びの様子でした。また、劇終了後、鬼に向かって、「オニは外／」の元気一杯のかけ声とともに、豆をぶつけ、鬼を退治する一幕もありました。

なお、同連合会では、のりなどの県内水産物のより一層の消費拡大を目指して、今後もこのようなキャンペーンを行ってゆきたいとしています。

のり普及PRの寸劇の一幕

阿成特産川ガニの釣りと即売

阿成漁業協同組合

現在、姫路市飾磨区阿成、阿成漁業協同組合（中川昭道組合長理事）では、モクズガニ（川ガニ）の釣りと即売を行っています。

このモクズカニは、姫路市西部を流れる市川の河口付近で漁獲され、同組合では五経営体、約四〇〇竃で、年間（漁期一〇月～四月）約六トンの水揚げがあります。

同組合では、このカニの釣りと即売を二年前から行っており、カニ釣りは組合の前に設置された木舟に放されたモクズガニを、長さ約1メートルの釣り竿で釣り上げさせるものです。釣り上げたカニは、一キログラムまで持ち帰ることができ、五人以上で予約すれば、から揚げ、水炊き、焼きガニなどの調理も組合でしてくれます。即売は各一キログラムで、メス（大）二千円、オス（大）千五百円、メス（中）千円、オス・メス混合（小）五百円の廉価で販売しており、遠くは京都から買いに来るお客さんがいる程、味も値段も評判が良いそうです。

カニ釣りは、毎週日曜日の午前九時～正午と、午後一時～四時に行っており、竿代は一本五百円。釣り、即売とも四月末まで行う予定です。

川ガニ釣りを楽しむ子供たち

第10回ひょうご海の子作文展入賞者決まる！

県知事賞に

居組小四年　西岡　真弓さん

兵庫県漁婦連主催による〝兵庫海の子作文展〟の審査会が、二月九日県立水産会館にて行われました。

募集を開始して第一〇回目の節目を迎える今回も、県下各地より一二九点と多くの応募があり、第一次審査を通過した三十六作品が最終審査に諮され、厳正な審査の結果、受賞作品十九点が決定いたしました。

本年度の作品も子供らしく優しい、素直で心暖まる作品が多く、優秀作品の決定にあたっては、審査員の諸先生方も大いに頭を悩ませたことでしょう。

なお、各賞受賞者は次の通りです。

兵庫県知事賞
「お父さん」
居組小4年　西岡　真弓

兵庫県漁連会長賞
「ぼくはりょうしの子」
室津小2年　中はし　かずとし
「私のお父さん」
浜坂小6年　日浦　香織
「一生懸命働くお父さん」
東浦中3年　岡田　珠実

兵庫県信漁連会長賞
「わたしのお父さん」
山田小2年　あわい　さちこ
「ぼくのお父さん」
居組小4年　木島　恒輔
「漁業に対して」
江井中2年　魚　雅統

兵庫県漁婦連会長賞
福良小1年　さかべ　えみ
坊勢小3年　森　広安
室津小3年　西口　優子
室津小3年　中川　浩行
二葉小5年　増山　裕美子
坊勢小5年　森　綾子
室津小5年　津田　千晴
福良小6年　笹川　真理子
諸寄小6年　増田　早苗
舞子中2年　綿貫　旨彦
東浦中3年　相田　裕子

全国海の子絵画展より

全漁連主催による全国海の子絵画展に本県を代表して出展された6点のうち、豊岡市立港中学校3年の熊本純二君の作品が日本放送協会会長賞に選ばれました。

おめでとうございます。

兵庫県知事賞

お父さん

居組小学校四年　西岡　真弓

私のお父さんは、魚市場で「せり」の仕事をしています。朝、漁師のおじさんたちが取ってきた魚が次々に荷あげされて、魚市場は魚でいっぱいになります。イカにカレイにイワシにアジ。ヒラメやイシダイ。とてもたくさんの魚のしゅるいがあります。サザエやアワビなどカイもあります。かわった魚もいます。大きな魚で、どじょうみたいな顔です。お父さんは、それらの魚や貝にねだんをつけてからせります。そして一番高いねだんを言った人に魚を買ってもらうのです。

毎日朝八時ごろになると、ウーーッとサイレンが居組じゅうにひびきわたって、せりが始まります。「カラン、カラーン。」とかねをならす時もあります。そして星二さんのお母さんやたかしくんのお父さんが漁業会の放送で、「八時十五分から居組市場でせもの、以上のせりがあります。」と知らせます。

そしたら、みんなが集まってきます。わたしも二、三べん「せり」を見に行きました。

広い市場も大ぜいの人と魚でいっぱいです。わたしのお父さんはぼうしをかぶって長ぐつをはいて、一メートルぐらいもある長い竹のぼうを持ってみんなの前に立っています。

そして、そのぼうで魚をつきながら、何かひとりごとみたいにゴチャゴチャ言っています。早口なので、わたしはお父さんが何を言っているかわけがわかりません。わたしは思わずわらえてきます。でも、いつもやさしくて、じょうだんをよく言うゆかいなお父さんが、せりをやっているときは、とてもしんけんなこわい顔なので、とてもびっくりしました。こんなしんけんなおとうさんの顔を見たのは、初めてです。お父さんが何か言うたびに、みんなメモちょうを持って何かを書きつけています。よく聞いてみると、ねだんのことを言っているようです。まいさんげのおじちゃんやおばちゃん、すすむさんのおじちゃんたちが、お父さんのせりを聞きながら、指を一本出したりしています。

そのたびに、四万円、四万五千円、五万円と次々にねだんがあがっていきます。もう指を出す人がいなくなると、その魚のねだんがきまって、ゆかりさんげのおじさんが、ノートをもってねだんを書いていきます。

お父さんはあせびっしょりかきながら、たくさんの魚を次々にせっていきました。わたしはそれを見て、お父さんがいつもつかれて帰ってくるわけがわかりました。

お父さんは居組の漁師さんの魚が少しでも高いねだんでうれるようがんばっているんだな、お父さんの仕事は大変だなと思いました。

そういうお父さんを見ていると、わたしもやる気がでてきます。だから、わたしもがんばっていきたいです。

サツキマスの標識放流

昨年一二月一〇日に、昭和六三年度新技術実証事業の1つとして、摂津播磨地区においてサツキマスの標識放流を実施しました。

この放流は、サツキマスの増殖を図るとともに、これを漁獲する小型定置網、刺網、舟びき網等の海面事業の振興を図る目的で行ったものであり、六二年度に引き続き二回目です。

ところで、サツキマスとはどのようなものかと言うと、降海性を有し銀白色化したアマゴのことであり、一二月頃に降海して海中生活に入り、大きく成長して翌年五月頃に放流河川に帰ってくるため、このような名で呼ばれています。

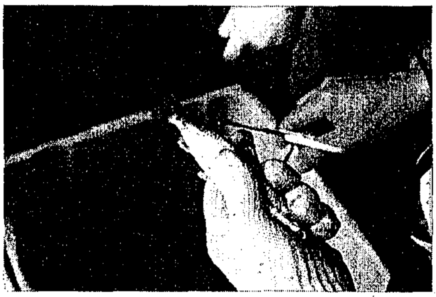
六二年度は、放流用アマゴを岐阜県の馬瀬村上流漁協から購入し、車で姫路栽培漁業センターまで輸送した後、そこで海水馴致を行いました。そして、姫路市連青壮年部および高砂漁協水産研究会の方々に協力していただいて、一部の魚にタッグ式の標識を付けた後、加古川、中川、市川の各河口域に、七〇〇～八〇〇尾ずつ放流しました。また、八〇〇尾程度を姫路栽培漁業センターに残して、養殖試験を行いました。

六二年度の成長例をみてみると、放流時（一二月五日）平均全長一四・八㎝、平均体重三六・五gであったものが、翌年五月中旬に江井ヶ島沖で再捕された時には全長三六・五㎝、体重七六五gに、また、養殖試験では四月中旬に全長三四・〇㎝、体重五八〇gにまで成長していました。全長についてみると、約二・五倍に、体重についてみると、何と一五～二〇倍に成長したことになります。

今回は、六二年度の結果を踏まえて、アマゴの購入先および標識方法を変えてみました。

まず、放流に用いたアマゴですが、今回は県内の青垣町養魚センターから購入したため、輸送時間が大幅に短縮され、アマゴもその分、元気な状態で姫路栽培漁業センターに収容することができました。

次に、標識方法ですが、今回は、麻酔剤を混ぜた海水の中にアマゴを数尾ずつ入れ、動きが鈍ったものから順次取り出し、手に持ったままハサミを使って、サケ科の特徴である脂鰭や尾鰭の一部を切り落とす方法を用いました。この方法だと、魚体をあまり傷つけずに標識を付けることができます。



また、六二年度は、一部のアマゴに標識を付けただけであり、再捕報告のあったサツキマスのほとんどが無標識のものであったことから、それらが放流したものであるかどうか断定が困難でした。そこで、今回は、放流するすべてのアマゴに標識を付けることにし、さらに、標識部位を放流場所ごとに変え、移動・回帰の把握に役立つようにしました。

今回も、購入したアマゴを、まず姫路栽培漁業センターに収容し、収容時⅓海水（海水1：真水2）であったものを、全海水になるまで徐々に海水の割合を増やしながら、約一日海水馴致を行いました。

そして、姫路市連青壮年部、高砂漁協水産研究会および明石浦漁協青年会の方々に協力していただき、標識を付けた後、市川、加古川および明石川の各河口付近に六〇〇～七〇〇尾ずつ放流しました。

また、今回は、明石浦漁協青年会の方々に協力していただいて、養殖試験（約二五〇尾）を行っています。

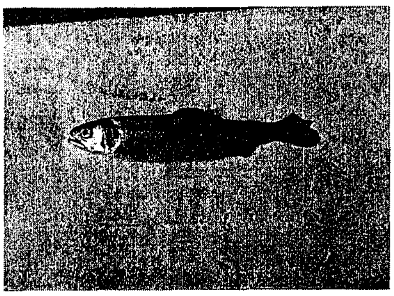
ところで、今回は、標識として鰭をハサミで切り落とす方法を用いたわけですが、この方法だと、切った部分がどの程度再生してくるか、遊泳力にどの程度影響を及ぼすか、あるいは、タッグやアトキンスのような標識物ではないため、漁業者の方が再捕した時、それが標識魚であると判断できるか等の問題が生じてきます。

鰭の再生については、一〇尾程度を用いて一か月間予備試験を行った結果、ほとんど伸びていなかったことから、放流後約半年で回帰してくるサツキマスの場合、標識として判別できなくなることはないと思われます。

また、遊泳力に対する影響ですが、予備試験では、通常の遊泳にはほとんど影響がみられず、問題となるのは、摂餌等速く泳ぐ必要のある時に、どの程度影響するかであろうと思われます。ただ、放流サイズが平均全長一八・六㎝、平均体重六三gと大型であるため、他の魚に捕食される危険性は少ないと思われます。

次に、標識方法についてですが、漁業者の方々に標識方法を認識していただくとともに、再捕された場合の報告をお願いするため、摂津播磨地区の各漁協にポスターを配布しました。

今回放流したのはわずか二、〇〇〇尾足らずでしたが、今年の春にこのうち何尾が、どのくらい成長して帰ってくるのか、非常に楽しみです。そのためにも、改めて、漁業者の方々に、再捕された場合の報告をよろしくお願いしたいと思います。



姫路農林水産事務所　内田　健二

水試ノート

兵庫県の内水面養殖業（アマゴ編）

内水面漁業

兵庫県は全国でも有数の漁業生産県ですが、そのうち内水面漁業生産は海面に比べ微々たるもので、総漁業生産量は昭和六一年度で約六〇〇t、魚種別に見るとアマゴ、ニジマスなどサケ科魚類が三〇t、アユが五〇〇t、コイ・フナが約五〇t、その他残りはウグイ・オイカワなどとなっています。この数字が示すように、本県の主要漁業生産は、ほとんどが揖保川・千種川・円山川の3河川でのアユ漁獲量で占められていることがわかります。

内水面養殖業

兵庫県での内水面養殖生産量は、サケ・マス類が合計一六〇t、アユ一五t、コイ・フナが一五〇t、ティラピア一六t、スッポン四t、ウナギ四tとなっています。合計三五〇t前後です。

このように本県漁業ではアユ、養殖業ではニジマスとアマゴが各々八〇t、フナが一〇〇tといったところが主要生産魚種といえるでしょう。

今回は、兵庫県の内水面養殖対象魚の中のアマゴについて、少し書いてみたいと思います。

アマゴといってもまだまだその名前、姿は一般的ではないので、ピンと来ない人が多いのではないかと思います。が、サケというのは皆さんよくご存じではないでしょうか。川で生まれ海に下り、何年か後に再び生まれた川へもどってきて産卵の後死亡するという生態はよく知られており、特に北海道、東北沿岸では重要な漁業資源となっています。

アマゴは、名前こそ…サケという形にはなっていませんが、兵庫県円山川でも孵化放流され、毎年一〇月～一一月頃に川をさか上ってくるシロサケと同じ種に属する魚です。日本では西日本を中心に養殖されており、アマゴと呼ぶのが一般的ですが、中にはヒラベと呼ぶ人もいるようです。食用としてはおいしく、また形、色の美しい魚です。体側はパールマークと呼ばれる大きな黒斑紋と鮮やかな朱色の斑点で色どられています。アマゴと姿、形がよく似ているヤマメとの区別は、この朱点があるかないかで見分けがつきます。色彩のもっとも美しい時期は春から夏の間で、産卵期にはいると婚姻色が出て色の鮮やかさは失われます。

産卵期は一〇月中下旬を中心に前後一ケ月で、水温下降の早いところから産卵が始まります。産卵開始水温は一五℃あたりからです。天然では三年で産卵し、死亡するようですが、養殖では天然よりはるかに成長が早いので普通二年で産卵、死亡し、まれに一年で成熟する場合もあります。成長は、水温等、環境要因で差がみられ、飼育水温が高ければ早く孵化し、また成長も早くなります。

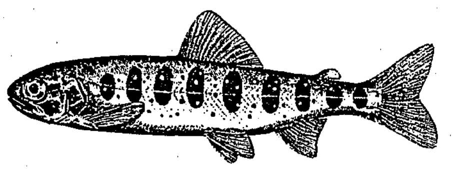
養殖魚としては、その一生を淡水で過ごし、海に下ることはないのですが、河川に放流されたものの中には、サケと同じように海に下り回遊して再び川を上るものもあります。これらは降海型アマゴもしくはサツキマスと呼ばれているようです。

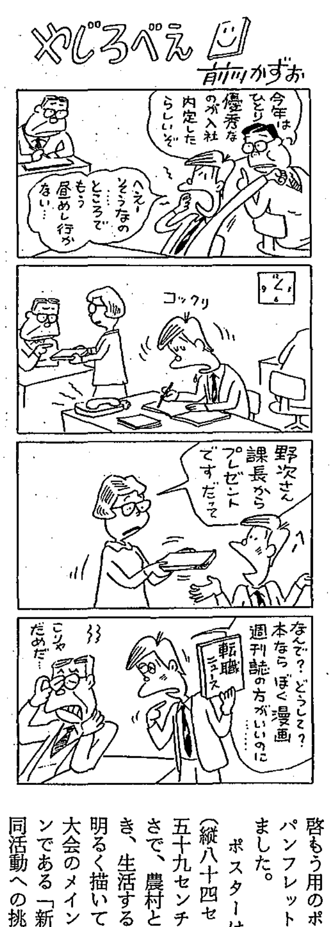
アマゴが海へ下るのは生まれた年の一一月頃で、約半年を近海で回遊生活をおくった後、四月から五月頃再び川へ上ってきます。サツキマスと呼ばれる由縁はこのあたりにあるようです。海中での姿は、淡水でのそれと全く異なり、体は美しい銀白色で、これを見たならなるほどサケの仲間かと納得がいきます。

肉は美しいオレンジ色をしており癖がなく淡白でおいしい魚です。もともと清らかな水を好む渓流魚ですので河川の上流部が生息域になっています。昔は、日本海にそそぐ川にはヤマメ、瀬戸内海側に流れ込む川に住むのは、アマゴなどといわれていたようですが、それも放流や移植によって区別がなくなっています。

兵庫県では、氷上郡・朝来郡・穴粟郡・美方郡などで、約二五経営体がアマゴ養殖を行っています。

川魚というとどうも独特の臭いが…といって敬遠する方も多いようですが全くそのようなことはありませんので、皆さんも夏には杉木立の中で小川のせせらぎとそよ風の音を聞きながら、また冬には寒山にいろりを囲みながら、ゆったりとアマゴ料理を味わってみられてはいかがでしょうか。




やじろべえ
前川かずお
今年はひとり優秀なのが入社内定したらしいぞ
へえ～そうなの……ところでもう昼めし行かない…
コックリ
野次さん課長からプレゼントですだって
転職ニュース
なんで？どうして？本ならぼく漫画週刊誌の方がいいのに……
こりゃだめだ…

兵庫ＪＣＣ通信

今、農協・生協では

農業協同組合

役職員が一丸となって県農協大会決議の実践に

昨年の十一月に開かれた第二十四回兵庫県農協大会の決議の実践に、県内の農協、連合会役職員が一丸となって取り組んでいこうと、啓もう用のポスターとパンフレットを作成しました。

ポスターはA全紙（縦八十四センチ、横五十九センチ）の大きさで、農村とそこで働き、生活する人たちを明るく描いています。大会のメインスローガンである「新たなる協同活動への挑戦」「ひらかれた魅力ある農協をめざして」と、同大会で決議された「地域に根ざした農協活動第二次三か年運動」の四つの重点項目がスローガンとして記されています。

また、パンフレットの表紙にもポスターと同じイラストが使われており、内容は、「絵で見る第二十四回兵庫県農業協同組合大会決議」と題されている通り、同大会での八つの決議をそれぞれ漫画風のイラストを豊富に使ってわかりやすく解説しています。

いずれも県内の全農協に配布し、大会決議の徹底と実践に向けての取り組みを図っていくことにしています。

生活協同組合

エイジレスに生きよう　高原須美子さん講演会

二月十七日、東灘区にある灘神戸生協・生活文化センターで「人生八十年時代の経済学」と題する講演会が行われ、同生協の組合員四百五十人が参加しました。

講師は、経済評論家の高原須美子さん。「エイジレスとは年をとらない、年を感じさせないという意味。人生八十年。寿命の伸びた分をゴムひもを伸ばすように薄めるのではなく、エイジレスに生きましょう。」と呼びかけ、そのための家計のあり方を示唆しました。

経済的な動きとして①直接税から間接税へ②生活の量的充実から質的充実へ③現在の生活向上から将来の生活安定へと移行がみられ、社会保障の安定財源として消費税が導入されること、また教養・娯楽費をふやして内需を拡大すること、将来に備えて貯蓄することが日本経済を支えていくことにつながると説明しました。

会場からは、消費税をめぐっていくつかの質問が出され、組合員の関心の高さがうかがえました。

一人百句

弥生

紅椿　島の娘の頬ゆたか
ふくれきし、潮の光の藍も春
春の雪　島のまほろば浄めけり
生涯を　海が伴侶よ春しぐれ
五分前　告ぐる銅羅鳴る春の潮
港かこむ　茅木に明るき漁師町
網洗う　航跡につく春かもめ
水輪小さく　生まれすぐ消ゆ　彼岸雨

口上

一番初めの〝紅椿〟は、私の最初の古い句帳に記されたものであり、私が二十二才の弱冠であった。

まだ、漁業会時代で、いくさに破れた日本人は飢えに苦しみ、道義と秩序を失い世は正に暗黒の相を呈し、戦時中食糧増産に寄与し、漁業の近代化を叫ぶ底びき網業者の跋扈と、漁場と資源を守るために立ち上がった釣業者が、風雲急を告げる時世であった。

この事態を収拾するための会議には、灰皿が飛び、火鉢が投げられ、灰神楽が舞いあがる乱闘シーンがでる始末であった。

そうこうするうちに水協法が交付され、漁業法が施行されるや、またたくまに一つが三つに分裂し、以後花咲き雪降り四十幾星霜が流れていった。

鎖国の日本が諸外国の進歩に遅れたように、六千人足らずの集落に漁協が三つに寸断され更にその連合会があるという漁村は、日本広しといえども只一つの珍現象で、この呈たらくが、施設においても、もののみかたや考え方にさえ、大きなおくれをとってしまった。

嗚呼。それもこれも遠い昔の語らい種（ぐさ）になった。

だが、このおくれをとりもどす方策は誰もが知っている。

知っていることを実行に移すのが、現代人の、――若い人達の英知だ。そう　おもう。

二十一世紀も、すぐそこに光ってござる。

紅椿のように。

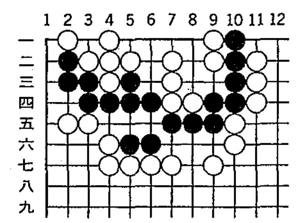
ゆらぎょれん　山上
平成元・二・一八記

詰碁

9段　橋本　宇太郎

黒先です。
黒好手順で活きて下さい。

（考慮10分初段程度）

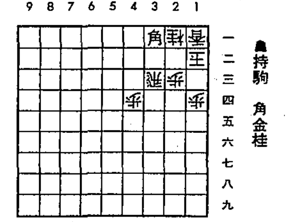


詰将棋

8段　佐瀬　勇次

ヒント
金打の事前工作を必要とします。

（考慮10分４級程度）



サンテレビ『こちら海です』ロケだより

「円山川　その川筋をたずねて」

〜但馬路より〜

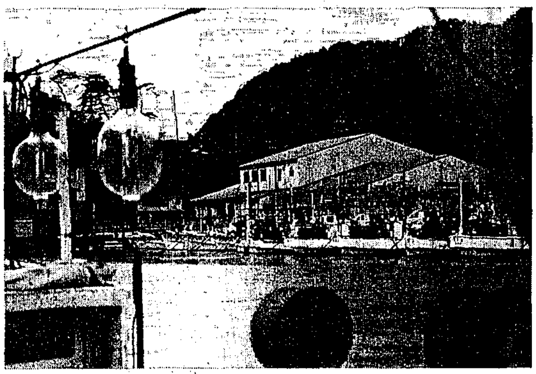
兵庫県に大河と呼ばれる川は加古川、円山川、揖保川、千種川、武庫川、市川、猪名川、夢前川があり、八大河川と呼ばれている。そのすべては中国山脈を分水嶺に瀬戸内海側と日本海側、南北に分かれて流れている。北流して日本海に入るのは円山川のみで、リアス式海岸で平地の乏しい但馬の海岸において円山川はただひとつ豊岡盆地を抱えている川である。朝来郡生野町に源を発し、その最初に出会う円山の地から名前がつけられました。

豊岡の津居山を河口に、生野を通り瀬戸内海へと一本の川路となり、兵庫県を横断する大切な路でした。道路網が発達し、船で行き来の役割は終わりましたが、川のもたらした生活が川筋の町々に残っています。大河の様子を呈する和田山の小さな船着き場は面影すら見ることが出来ませんが…。

竹田城最後の城主赤松広秀公が奨励した漆器が竹田の家具として発展しました。漆器の乾燥に必要な湿気を円山川の川霧が生む。川を流通の路となって販路を求め昭和三〇年頃姿を消すまで約三五〇年の伝統を誇っていました。その伝統の技が家具作りに活かされ、今では県下随一の婚礼家具の産地です。

下って養父町。もともと但馬養蚕の中心地で早くから製糸工場が出来、町の産業を担っていました。その絹糸を操る蚕の繭から出るサナギを餌に養殖鯉の産地となりました。元禄年間より食用の黒鯉は山里の蛋白源として飼育されていましたが昭和一〇年頃より錦鯉が導入され県下随一の鯉の産地です。町中には円山川から引き込まれた溝や庭先の池に美しい鯉が…。また食用の鯉も水のせいかまったく泥くさい匂いがなくいろんな鯉料理が伝わっています。

また湯葉を作っている所が一軒、水に金気があると湯葉の色が悪くなるという程、大切な水。東京の業者を通して宮内庁にも納めていると言う古い湯葉屋さん。これも良い水があってこそ生まれました。


豊岡　津居山港

いろんなかかわりをもつ養蚕からの製糸・反物の横糸になる撚糸は水が悪いとちりめん独特のシボが出ないと言う程、微妙な影響を水は与えています。八鹿に川魚を専門に獲る漁師さん。鮎、鯉、鮭、ハエ。一年中川魚を求めている人がいます。今はオイカワ＝寒バエが美味しい冬…炭火で焼いて丁寧に注文に応じています。サッと焼いたのを唐揚げにしたり、佃煮にしたり…川はいろんな山里の季節の味と蛋白源となる幸をもたらしてくれます。川を伝って出石ではちりめん…精練に良い水は欠かせません。出石川が流れ込むあたりから円山川は悠々と流れハマグリ、シジミも日本一と言われる味に育てました。いよいよ河口、津居山から日本海へ。いきのいい、セリ声が響きます。

八鹿　川魚漁師　村田さん

生野に発し、豊岡まで…。川は本当に、いろんな生活、風土を形成する動脈のようです。

（こち海スタッフ）

漁海況情報

平成元年二月　兵庫県立水産試験場

海況

（明石海峡周辺）旬平均水温は上旬九・九℃、中旬九・九℃を示しており、平年に較べて上旬一・二℃高目、中旬は一・四℃高目である。

（大阪湾西部・紀伊水道北部）二月一三日の調査結果によると大阪湾の表層水温は九・四〜一一・一℃の範囲にあり、平年に較べて〇・五℃程度高目である。また紀伊水道北部の表層水温は一〇・二〜一二・一℃の範囲にあり、平年に較べて一℃程度高目である。

（播磨灘）二月一〜二日に実施した調査の結果によると、表層水温は九・二〜一〇・二℃の範囲にあり、平年に較べて〇・五℃程度高目である。

漁況

（小型底曳網）明石海峡周辺を主漁場とする小型底曳網（ちん漕）ではメイタガレイ、マコガレイ、アイナメ、アナゴ、マダコ、イイダコ、サルエビなどが主に漁獲されている。また板曳網ではアナゴ、キス、マアジ、カサゴが主に漁獲されている。大阪湾ではサルエビなどの小型エビが漁獲されており、操業日によって漁獲量にむらがあるものの、例年になく多い。大阪湾北西部で年末から年明けにかけて多獲されたマアジは、量はやや減少したものの引き続き漁獲されている。また、マアジは紀伊水道北部でも底曳網や定置網で例年を上回る量が水揚げされている。

（一本釣・曳縄釣）明石海峡及びその周辺海域ではタチウオ、スズキ、アイナメ、メバルが主に漁獲されている。タチウオの漁獲量は先月に較べ減少した。

（刺網・延縄）大阪湾北西部を主漁場とする流し網、延縄では、先月に引き続きキスの漁獲量が多い。

（船曳網）イカナゴシンコ漁は大阪湾では二月二二日、播磨灘では二月二七日が網下し日となった。大阪湾の網下し日の漁獲量は一統当り一〇カゴ前後であった。一方、紀伊水道北部で操業している福良漁協では、一統当り四〇カゴ前後水揚げしている。

栽培漁業センターです

(9)

HYOGO PREF. MARICULTURE CENTER

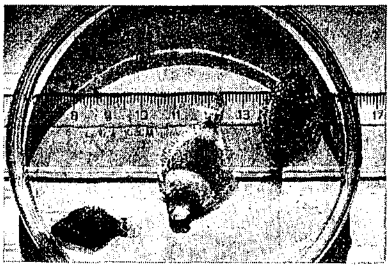
昨年の一一月中旬より飼育してきたメイタガレイがアミエビやイカナゴの細片肉、配合飼料等に餌付いた。ヒラメに比べると口がとても小さいため大きな餌はのみ込まないようだが、小さめの餌をひんぱんについばみ腹をふくらませていく。二月末で現在約八千尾が残っている。取り組んで一年目にしては大きな成果が得られたと思う。

しかしまだまだ問題もある。一つは成長差がはなはだしい事。同じ日に生まれた卵から育てた魚でも大きなものは約四㎝、小さなものでは半分の二㎝足らずで変態もしていない。発色過程がまだよくわからない段階だが、ヒラメなどと同様に色素異常魚の出現も問題のひとつ。

他機関ではあまり例のない魚種だけに前進すればまた別の問題が出てきそうで、これから二年、三年と継続して取り組んでいくことが必要。

スズキは、一二月末から始めて六〇日目で約二㎝三万尾。ようやくスズキらしさと思わせる形になってはきたものの、まだまだ親のどうもうさを思わせるたくましさにはほど遠い。

マコガレイの生産は順調に進んでいる。約三〇万尾の仔魚が二月二〇日で約一三㎜、水槽底面に着底している。見学に来た人達の中には水槽をのぞいて「何もいない。」と思ってしまう人もいるようだが、底にはギッシリと仔魚がいる。三月中旬には二〇㎜になって配布放流の予定。


メイタガレイのふ化後100日

神戸海洋気象台

３・４・５月の３か月予報
大阪管区気象台発表

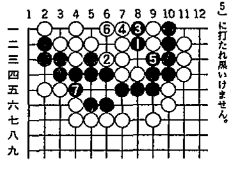
この期間は寒暖の変動が大きく、後半には平年より気温の低い日が多い見込みです。

３月」初め天気がぐずつきますが、その後は周期的に変わるでしょう。前半を中心に暖かい見込みです。

４月」天気は周期的に変わるでしょう。寒暖の変動が大きい見込みです。

５月」爽やかな晴天の日が多いでしょう。朝晩は冷え込み、内陸部ではおそ霜の恐れがあります。

詰　碁



解　答　「黒先活」

黒「1」に打つのが好手順です。白「2」黒「3」白「4」黒「5」白「6」黒「7」となり活きます。

黒「1」を「6二」に打つのは白「2」と打たれ黒「6」白「4」黒「1」の時白より「5」に打たれ黒いけません。

詰将棋

解　答

▲2四桂　△同　歩　▲3四角　△同　飛
▲2二金　△1三玉　▲3二金　△2三玉
▲2二角成　まで。
（九手詰）

解　説

▲2二金打を急ぐのは△1三玉▲4六角△3五歩合で、上部脱走を制することができません。

▲2四桂から▲3四角打が上部脱走を制する好手段です。最後▲3二金を▲2一金としては△3一飛があり失敗します。